

| | | | |
|---|----------------------------------|-----|----------------------|
| 第4回 第6分科会会議録（概要） | | 場 所 | 新宿清掃事務所 会議室 |
| 日 時 | 平成17年8月20日（土） 午後1時00分～午後3時50分 | 記録者 | 【学生補助員】 伊藤幸一、江藤慎介 |
| | | 責任者 | 区事務局（荒井） |
| 会議出席者： 44名 傍聴者 2名 （区民委員： 37名 学識委員：2名 区職員： 5名） | | | |
| ■配付資料 ① 進行次第 ② 第3回第6分科会会議録（概要）、第3回第6分科会フォロー会議録（概要） ③ 感想カード（概要） ④ 発表用資料（1班、4班、5班、6班、7班、9班、10班、11班） ⑤ 新宿区・早稲田大学協働連携第3回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ | | | |
| ■進行内容 1 開会 2 総論について各班からの発表 3 その他 ○次回検討分野の決定 ○その他 4 都市計画部からの説明 5 閉会 | | | |
| ■会議内容 【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員 | | | |
| 1. 開会 ○：ただ今から、第6分科会の第4回会議を開催いたします。本日は、11班による検討内容の発表と次回テーマの決定、また都市マスタープランなどの説明など議題が予想以上に多いため、申し訳ございませんが、会議時間を30分ほど延長させて頂きたいと思っております。急なことなので都合のある方は、途中退室も結構ですので、よろしく願います。なお、会議の内容は、できるだけ詳細に議事録に残していきます。 | | | |
| ◎：（三田）こんにちは。今日はいよいよ検討作業の結果発表ということで、楽しみにしております。これまで、「新しい公共・自治のあり方」ということで、コミュニティ、多文化共生、協働・参画、地域安全、自治制度という5つのテーマを検討したわけです。次回からは各テーマごとの作業になりますので、その前提として総合的に見渡して海図を作るのではないかと考えております。非常に重要な意味をもつと思っておりますので、みなさんの活発な意見を期待しております。 | | | |
| 学識委員の役割について述べさせていただきますが、前回のみなさんの感想カードに、「学者先生の原則論も忠告的提言も大切だが、100日の説法よりも学者先生も加わって実戦部隊に加担する必要がある」というコメントがございました。実は我々3人の学識委員も常に語り合っているのは、まさにそのことです。つまり、みなさんの実践に役に立たないと意味が無いということです。ちなみに、今まで学識委員がどんなことをやっているかという、まずは運営の方法について区の職員の方から相談され、質の高くスムーズに進めるためにはどうすればいいのかという事を協議しています。そして、運営の流れが決まっていくということがございます。 | | | |
| 2点目は、実践に役立つような情報の提供や議論の進め方などを提案させて頂く | | | |

役割だと思っております。

3点目は、これからのことなのですが、みなさんからこのように学識が関わってほしいということがございましたら、柔軟に対応していきたいと思っておりますので、我々を使っていたいただきたいと思います。

2 総論について各班からの発表

- : それでは、さっそく発表に入りたいと思っております。制限時間は10分以内として、2分前と10分経過時に合図を出します。また、2時頃に休憩時間を入れたいと思っております。発表の最後には、次回のテーマは何がよいということになったかもお知らせください。発表する方及び班のみなさんも全員、前の方に出てください。では最初に1班から、お願い致します。

2、総論について各班からの発表

【1班】

- : みなさんこんにちは。第1班です。時間が無いので、手短かに説明したいと思っております。プリントをご覧になっているとは思いますが、私たちの班は、「コミュニティ」「地域安全」「参画・協働、自治制度」の3つに分けて、3人で手分けしました。それでは、ごく簡単に説明していきたいと思っております。

では、「コミュニティ」について説明させていただきます。多くの意見を大きく1つの意見にまとめてみました。近年、「家庭内合理化」が進みとありますが、家庭内合理化を簡単にいいますと、家庭内で電化製品が増えて仕事の量がドンドン減ってという意味です。時間的なゆとりができた、その結果として相互依存性が失われ、個人個人が係わり合いを持たなくてもいいような間柄になってしまうということです。お互いを知らなくても困らないという状況が生まれてきています。家庭内でこういう状況ですから、これが地域などでは、なおさら生れやすいと考えました。それによって話す必要が無くなってくる、話し合わないという状況があります。話し合う機会がなくなり、話す気力が無くなっているということです。

また、商店街や学校、行政の組織が縦割りでバラバラということから、参加しづらい雰囲気、参加者が決まった人ばかり、参加者の高齢化で少ないとか、相互理解の土壌なしという状況が地域で見受けられます。

解決策なのですが、公共施設の空きスペース、最近であれば少子化で学校がかなり教室とか空いていたり、建物そのものを使わなくなっていることがあります。そういった所を有効利用して、集まれる状況を作っていくことです。それを発展させ、世代を超えたネットワークづくり、小さな環から大きな環になるのではないかと。それが、将来像としては、地域単位として小学校を中心にコミュニティを作っていく。災害が起きたとき、みんなが一番集まれる小学校を「コミュニティ・スクール」と位置づけ、残余的機能を持たせる。難しい事かもしれませんが、例えば困ったことがあった時は学校に相談するという考え方です。学校に行けば誰かしら居てくれて「三人寄れば文殊の知恵」というように、助けてくれるということです。以上です。

- : 次のテーマは、「地域安全」です。我々が考えた問題では、災害時の備えの問題、道路・河川等公共スペースの問題、脱法ドラックの問題、子供の心の問題の4つが出たのですが、時間の関係上、初めの2つに絞らせて頂きます。

災害については、区の方で対策が出ていますが、徹底しないといけない問題があり、特に大地震時の行動指針については、さらに一層徹底を図る必要があります。

また、事業者の協力も欠かせないので、3者（区民・行政・事業者）が協力できる体制を徹底した方がいいのではということです。また、高齢者などの災害弱者対策を一層、強めて頂き、将来的には大災害時の住民支援を公民一体で徹底して頂きたいということです。

それから2番目の問題ですが、解決策としてbroken window rule（ニューヨーク

で成功した対策)ですが、汚れや破損を直ちに直すという活動です。行政だけではなく、住民も協力して、ごみを拾うことを日常的にやったりすれば環境も良くなる、ということです。以上2点について説明させて頂きました。以上です。

- :「参画・協働、自治制度」ですが、現状は資料の通りですが、なかなか上手くいっていない。何故かと言うと、財政硬直化、区議会がはっきりしていないとか、区民の意識とかの理由のほかに、「参画と協働」の境界線が、分からないということがあります。

協働の役割を担う町会の高齢化やボランティア活動の需要と供給がマッチングしていないとか地域内事業所との協力関係が希薄といった問題点が多くあります。

解決策は、行財政改革推進会議や区議会などで色々やってはいるのですが、それが上手くいってるのかという「現状認識」が必要だと思います。

将来像としては、地方の時代として、自治を育むとか、新しい自治とか言われている中で「区民会議」が出てきた訳です。こういう区民会議は継続して頂きたいし、地区協議会を活用して、対等にやれというならば、組織・権限・責任・実施まで組織に区役所にも入っていただき、それを区政に反映するシステムにして欲しい。そのためには、柔軟な計画や柔軟な組織が必要であろうということです。以上です。

【2班】

- :はじめまして。私どもは新宿区に50年近くお住まいの方や数十年、新宿区にお勤めの方、それと30年間お住まいの方、かなり地域の方がいまして、いろんな意見が数多く出ましたので、発表させて頂きます。

KJ法で出たいろんな意見を羅列して、それをソートし、第6分科会のテーマにそって我々の意見をフィッシュ・ボーンで当てはめました。皆さんも当然出たと思いますが、我々も大きく分けるとまず頭の「コミュニティ」から系列的に派生していくと思います。私は、1つ1つ時間をかけて研究しないといいものが出ないと思いますが、結果的にこれが何のためかと言うと、総論として我々は「地域の安全」を何としても守りたいので、そのために一番大事なのは「コミュニティ」ではないか。それから地域の安全、それを実現するには「多文化共生」も必要だろうと、そのためには「自治制度」も「協働・参画」も大事だということです。

つまり、ヘッド(念頭におくのは)は「地域の安全」ということです。地域の安全といっても、みんなの思いや経験を活かしながら10年後を語ろうというので、非常に難しいのですが、過去は過去として、安心して暮らしていくにはどうしたらよいのだろうかというフィッシュ・ボーンになっています。

「コミュニティ」の中でも、いろいろ意見がありました。特に「多文化共生」で、区の30万人の住区民のうち東南アジアの方を中心に数十カ国、1割(約3万人)が外国人です。今はマイノリティ扱いですが、新宿区は「多文化共生」といって、おおらかに全てを受け入れています。この伸び率でいくと私の計算では10年後には、区民の方よりも多くなってきます。そういったときに少数として「多文化共生」として受け入れましょうというのは、果たしてできるのだろうか。そこで、本当に外国人の方の参加などを行政が考えているなら、行政にも考えて欲しい。そこで、聞きたいのは「多文化共生」というのは、一体、新宿区の中でどれ位までの方を入れた試算になっているのかということです。次に「コミュニティ」の中で我々に欠けたのは、簡単にいえば「井戸端会議」的なものがなくなりました。そこで井戸端会議的なものをどんどん作って頂きたい。

「自治制度」については、10年後も安心して暮らすためには担保(手段)としては「行政」です。行政の人が意識を改革して、いろいろと形のところに入って頂くということです。こちらがシナリオ道理に動くのではなく。昨年10月に区で出されたもので、「いろいろなことに留意しつつ検討していきたい。事務効率化しているか、適正な負担となっているか、区民のニーズに合致しているか、協働・連携が図

られているか」などといったものがありました。

区にお願いしたいのは、我々もこうして無償で真剣にやっているの、区の方も意識改革して頂いて、今後区と一緒にやっていきたい。次回のテーマは、「協働」。協働とは、具体的に誰がいつどんな形で協働していくのか、第1班にもありましたが、我々の意見がどれだけ反映されたかウォッチング制度というのを提唱して、行政や大企業と一緒にあって、1年や2年の話ではなくしたいと思います。以上です。

【3班】

- : 我々が感じたのは、区民会議に参加したのは場違いだったという意見が大半を占めていまして、意見を言って下さいと言ったときに、「試されているのではないか」とか「自分の得意でない分野も参加しなくてはいけない」といった意見が多かったのです。

まず、これまで我々がしたことは、何でもいから意見を言おうということに徹しました。我々の班のテーマは、KJ法を学ぶということだけに絞りましたので、その辺はご理解ください。

まず何をしなくてはいけないかという、基本構図(草案)を作るのが最大のテーマだと。皆の意見を皆でまとめながら、1つの方向に組み立てていくことが今回の発表の結果だと位置づけました。そして全部これに集約出来るのではないかという事に行き着きました。「知る」「行動」「要望」の3つに皆さんの意見が分かれるのでは思い、テーマごとに持ってきました。

「地域」というテーマで話をしたときに、意見が文章的になってしまう。文章を一言の単語で表そうと思ってみてみました。しかし、メンバーが変わって詳しく聞けなかったということもありました。こういう意見が出たということが聞いて頂ければ成功だと思います。たとえば個人情報、肖像権など知りたいというものは色々あるようだが、ルールとか法律といった感じにまとめてみようとし、行動というのは空白ですが、これから増えていくものだと思います。要望としては、道路の設備、自転車の通路にまとめました。そうすると2番目、3番目のときは、1つのテーブルで話すことが出来るのではということです。そして、どんどん簡素化していくのがKJ法の必要性だと認識しております。

次は「多文化共生」についてですが、一番多かったのは、外国人が分からないということで、それを簡素化すると、どう話したらいいか分からないと。同じ韓国系でも、同じ韓国語を話す人でもたくさんいる。外国人の日本語に対する考え、学ぶ環境。次に極端に外国人が急激に増えている地域、各班それぞれ話し合っていると思います。次にやれることはどんな事かという、外国人がどの地域に住んでいるかぐらいは分かると思うので、外国人に対する接し方については、区の方でかなり出来るのではと思います。実際、ごみ問題とかは行政にお任せするというのが要望。

次は「コミュニティ」に関しては、長期住民と一時的な住民。これは外国人と日本人という事ではなくても、日本人同士でも隣に誰が住んでいるのか分からない状況なので、実態調査をすれば分かるのではないかと思います。後はコミュニティの活用・活性化ですが、これは広告活動ということで括れると思います。居住者のコミュニケーションも地域の活用で出来ると、地域問題も行政とどうやって行くか解消できると思います。

「協働・参画」もボランティアがあるかで、キーワードは「実態把握とセミナー開催」。そして、行動は生活にゆとりがある人しか参加出来ないのではないか、公的機関の職員の短期異動を止められないか、という意見がありました。これもキーワードでまとめることが出来ると思います。

「自治制度」も地域ごとに、見方や考え方が違う。地域センターの指定管理者問題。地域におけるの町会とは。出張所の権限を知りたい。町会と共同住宅との連携。どこまで住民が自治制度に関われるか、窓口が充実しても解決策が公開出来ない。

こんな風に色々な意見がありましたが、まとめるときにキーワードで括ってあげれば1つにまとめられます。それで、今後また知らない人でも見た瞬間にパッと分かるKJ法を今後やっていくのが今後の目標です。

【4班】

- : 私は初めてこういった会議に参加するのですが、メンバーにはそれぞれの活動などでプロの方が何人かいらっしゃいますし、意識の高い方々が多く参加しています。それから、区民会議の役割は、新基本計画や都市マスタープランなどに関する意見を区長に提出することと、各審議会へ意見を提出することです。つまり、プロ集団の中で、1年間かけて提言することをまとめていかないといけないという事は、私にとっては非常にエネルギーと時間を要する役目で、やらなければよかったと半分思っております。それで第1回という事ですつたない部分もありますが、これから皆さんのご意見を聞きながら少しでもいいものが出来たらなと思っております。

集約しますと、協働するために行政サイドは何をしたらいいかと、また協働を推進するために国が出来ることは何なのかと、ということがテーマになると思います。先程の三田先生の通り、実態にあった提案はどういう風にすればいいのかということが大事だと思います。2班の方がおっしゃられていた地域安全、多文化共生は、新宿区では最大のテーマではないか。それによって、新宿区では伸び伸びと生活出来ているのではないかと思います。今日はプリントにあります通り、「地域安全」と「多文化共生」について行い、コミュニティ、協働・参画、自治制度は時間を追いながらやって行きたいと思っております。

要は、「地域安全」の要件は何か。皆の意見を集約すると、「人間としてのびのび生活できる街」や字盛大を担う子供が元気に育つ環境にあるかどうか、犯罪のない街、災害に強い街、1班の方も発表していましたが、美化を心がける街は、ニューヨークの地下鉄の話などでもありと通り、安全の街の前提になっているのです。これからシステムや仕組みは出来てくるとは思いますが、それが常に持続して改善していかないといけないという事が、地域安全の最低限の条件です。区の中でも、いろんな計画や条例や事業が行われていますが、具体的な施策を横断的に、縦割りではなく進めていくことが、1番のポイントになると思います。それには、実際にそのセクションの中間管理職クラスの方々が果たして現場をよく認識しているのかどうかと、現場での問題点などを各セクションが完全に把握しているかということが問題になります。横断的にやっていかないといけない事ですし、行政もコスト削減という中で、現場主義を導入していかないといけないと思っております。最後に区民サイドは何が出来るかという事ですが、いろいろな方が取組んでおりますが、中には重複している問題もありますし、一部の事を取り上げていることもあるのですが、総合的にやっていかないといけないのではと思っております。

「多文化共生」ですが、新宿区の計画もあるが、例えば外国人の問題でも「第二次行財政改革計画」では新たに出てきて、さらっと流して良いのかと思っております。もう一度、行政が現実の部分を見直す必要があるのではないかと意見が出ました。例えば、区の最大の問題である外国人問題について、区の専門部局があるのかという問題があります。同時に、専門の職員がいるのかと、総合的に色々なことを知っている人がいるのかということがあります。それが、我々が行政に求めたいことです。それぞれの分野ではNPOの方や地域のボランティアの方達がこの問題に何十年となく真剣に取り組んでいらっしゃるという事が分かったのですが、そういう方達や組織を行政は有効に活用して、行政が多文化共生に対する土壌づくりをするのが大切だと思います。

先日、第2回の「まちづくり講座」が早稲田大学でございまして、その中で韓国の留学生の方が先生に留学生の立場から3つの要望・問題を質問しました。外国人の確保を低賃金労働のためにやっているのではないかと、留学生政策の達成率が非

常に良くない、人数の受け入れ、公的住宅の提供などが計画通りではないかという事と、地域の受け入れが非常に希薄だという、3つの点を発言していました。やはり、そのような意見を行政サイドがどこかで集約していく、そしてNPOやボランティアの方達が情報を提供しながら何かを創りあげていくことが必要であるのではないか。概略ですが、こういったことが今回まとめた内容です。

次回のテーマは1つ1つのテーマを深く検討していく、またこの阻害要因をもっと詳しく話したいと思います。どのテーマを順番に話すかは決めておりません。

【5班】

- : 私達は「地域安全」「多文化共生」「コミュニティ」「協働・参画」を話し合っていたときに、行き着いたところが「自治制度」でありました。そこで、5班は自治制度を重点的に話していきたいと思います。

まず、地域安全ですが、現在、どこでも安全な所というのではないように思いますし、全て自己防衛するしかありません。安全管理を心がけて「油断禁物」という心がけでいかないと、安全というのは待っていません。泥棒も風貌では分かりません。近所の小学校の生徒も1人で帰っていますと、近所の人々が注意して見ていかないといけません。私もそういう所に関心がありますので、例えば横断歩道を渡る時には、小さい子には渡り方を教えたり、高齢者でなかなか渡れないときには、手を上げて渡らせるようにしています。私たちの町会では、中越地震があった2日後に、転倒防止用の「ふんばる君」を1軒1軒に配布したところ、大変喜ばれまして、先日の東京で大きい地震があったときも心に余裕がありました。

次に「多文化共生」ですが、私の住んでいる周辺は外国人が少ないのでよく分からないのですが、外国人の多い所は色々問題があると思いますが、銭湯やごみ捨てルールなど常識を持って共同生活をしていただきたいなと思います。

「コミュニティ」ですが、今の世の中、隣の人が全く分からない時代になってきました。昔は、朝仕事に行き、夜帰って来て近所の人達と話し合ったりすることからコミュニティが生まれてきましたが、今の若い人達は「1日24時間は働く時間」と考えているようにも思われます。ですから、自分たちの時間を拘束されたくない、誰にも何も言われたくないという人達が多いのです。夜中に働く人もいるし、昼から働く人もいるし、生活がそれぞれ24時間バラバラになっているので、なかなかコミュニティが生まれにくい原因の1つにもなっていると思います。生活がかかっている事ですから、すぐには直らないと思いますが、皆さん大きい気持ちで少しずつ変化させていくようにしてほしい。

「協働・参画」ですが、各町会・自治会でもあることですが、うちの町会では清掃をしたり、害虫駆除をやったり、ラジオ体操や盆踊りをしています。でも、なかなか参加してくれません。そこで、我々は、ひとり暮らしの方や障害者の方や寝たきりの方のお宅に訪問して、話し相手になったりして、少しでも当人のストレスが取れて、生きがいを感じてくれればという事を願って活動しております。そういう活動をしながら皆さんに聞いてみますと、腰やひざが痛いという方ばかりです。だから外に出るのが危ないから家に閉じこもっていると。それで引きこもりになると寝たきりになってしまうので、なるべく町内の人達に紹介して、協働・参画しやすいようにしてやったらどうかと頑張っております。

「自治制度」ですが、5班の人達に聞いても町会が二分化され、従来の町会の人達となかなか交流が持てない。必要な時に必要な所に伝わらない、新しい町会員とマンションの人達も町会の情報を知りたいが、情報が入ってこないとありました。

治安と災害について心配しているので、(三栄町)町会で色々改革し、すごく良くなったことを話したら、発表してみたらという事で今日発表させて頂くことになりました。うちの町会でも従来の方が幅を利かせて、あまり前向きな町会ではなかったのです。それで治安も悪く、犯罪も多かったのです。私が町会長になる前か

ら、ひとりで半年間、週二回パトロールを3年間しました。一人二人と増え、みんなでやるようにしました。これを会長になってから当番制に改革し、すごく成功しました。夜中のパトロールも皆さん忙しい中で、協力して当番制でやっております。町には昼間の顔と夜の顔とございまして、昼間は非常にごみが多いのです。

そういうことで、私たちも町会も頑張ってきました。時間が無いので、ここで終らせて頂きたいと思います。ありがとうございました。

(5分間休憩)

【6班】

- : 第6グループの発表をさせていただきます。今回、中間発表と言うことで、まず課題の抽出と今後の考える方向のヒントを探ると言うことで検討を進めてきました。

こちらが始めに事務局の方から関連概念図ということで提示して頂いたものです。それぞれの5つのテーマがこのように星形に関連し合っているという図式図です。ここから議論を始めました。

最初に「多文化共生」です。メンバーの意見。外国人のお友達が寂しそうにしている。言葉や習慣の違いで、自分の気持ちがうまく伝えられないようです。区内に住むそれぞれ違った文化を持った人たちが、どうやったらお互いに安全で、より良い生活をしていけますか。「多文化共生プラザ」とは何をするところでしょうか。新宿の特徴である外国人との共生をいかに進めるかが日本の将来的な課題です。外国系住民と協働で行うまちづくり。10年後の新宿は、外国人参加による活性化されている街のモデルではないか。区は観光事業にもっとお金を使ったらどうでしょうか。これら意見の集約としまして、外国人と日本人が、互いに理解・尊重し、地域社会の一員としてコミュニティを運営し、街をつくっていくことが必要だと思います。異なる文化的背景を持つ外国人区民の人権を尊重することも必要と考えます。

次に地域安全です。メンバーの意見。昼間、家に居ないので隣近所のことあまりよくわからない。新宿地域の犯罪は減少傾向にある、いや、そうでもない。もう少し統計的なデータで判断すべきではないか。災害の時、地域としてどうすればよいか。防災訓練が少なすぎるのではないのでしょうか。集合住宅、マンションなどの地域における役割の明確化が必要ではないか。災害時などいざというときの連携という意味です。事例報告としまして、韓国では行政主導で、都市住宅の災害対策、建て替えなどを推進しているが、日本ではどうなっているのでしょうか。地域安全の編集です。地域の安全は、防犯に関心があって傾くことがあるのですが、防災対策も考えることも大事ではないかという視点です。地域内で互いに良い関係が保てるよう、地域でのコミュニケーションにも工夫が必要です。

コミュニティについて。メンバーの意見。コミュニティは、誰のものでしょうか。異なった人たちと理解し合うには、もっと相手の言葉を理解することが必要です。地域団体のネットワーク化が必要ではないのでしょうか。外国人ネットワーク作りを行政が支援してほしい。この外国人という意味は、新宿区内には中国人、タイ人、韓国人などさまざまな民族グループがございまして、そういう各グループのネットワークが必要だということです。10年後、20年後の新宿区を担うこども達を地域でどうやって育てていくか。日本人と外国人が、共に会議などで議論をする場があるとよいと思います。行政と住民のコミュニティ参加がもっと必要ではないのでしょうか。外国人のボランティアを育成してほしい。事例報告です。韓国のマンションには、女性たちのコミュニティである婦女会という場があり、何でも話し合い、解決する機能をもっているそうです。コミュニティの集約です。世代や国籍を超えてコミュニティへの参加の仕方を考えることが必要ではないのでしょうか。子育てや青少年育成のコミュニティのあり方についても考える必要があります。

次に協働・参画です。メンバーの意見。費用の住民負担による財政の立て直しが急務です。参加の仕組みづくりを考える必要があるのではないのでしょうか。違った

国の人たちが、共に働ける職場、地域環境を提供する必要があります。これも意見集約です。行政と住民の役割を明確にして、協働・参画を進める必要があります。

次に自治制度です。メンバーの意見。町内会の再生が必要ではないでしょうか。高齢化が著しいところもあり、若手の参加が欠かせない。町内会に入っているが、誰もが気軽に意見を出し合う場とはいえにくいようです。区内の違った文化を持った人々を把握することが必要です。外国人会議などを設置し、区政に参加させてほしい。区政に外国人の声を。

ここまで議論を重ねてきまして、最初のそれぞれ5つのテーマ、それぞれ重なることも多い。それを集約しますと、真ん中にコミュニティがあり、コミュニティから出発して、またコミュニティに帰ってくるという構造が見えてきました。つまり全ては「コミュニティ」を中心に考えることができるのではないかという、1つの結論です。そこで第6グループとしましては、まずコミュニティの存在が基本である。まずコミュニティが成り立ってこそ協働・参画がある。コミュニティが成り立ってこそ地域安全がある。コミュニティが成り立ってこそ多文化共生がある。そしてコミュニティが成り立ってこそその自治制度である。ここでコミュニティの考え方ですけれども、従来、多くは「コミュニティと地域住民がほぼイコールである」と考えられてきたと思います。ここで新たにコミュニティとは地域を構成する人という解釈をしまして、これら地域住民だけではなく、行政関係者であるとか、NGOであるとか、そういった地域に参画する方々も含めまして、地域を構成する人々というふうに考えました。

これは先日の第2回新宿まちづくり学講座からの提案です。その1として、明日の日本の真理国家にあるのか。多文化共生は何を考える、ここでは法整備の出発点という視点がありました。次に、自治体文化政策と変化ということで、具体的な社会問題や文化ニーズを探り、それをどのように文化によってどのように解決するか、どのように考えるかを考える。これは文化アセスメントという視点です。

ここで第6グループからのまとめに入ります。新宿区のコミュニティづくりにもっともっと考えていくことをしませんか。これをなくしては様々な人が共に生きていく、将来の新宿区というものを語れないのではないかと、ということで終わらせていただきます。

- : みなさん、こんにちは。もともと6班は1人の方が流れを発表して、残りの方が1人ずつコメントするという事になっていたのですが、残りの4人の方が欠席されました。私は外国人です。なかなか皆さんのまわりには外国人が住んでいない、そういう地域もあるみたいなのですが、私は百人町でして、新宿区で一番外国人が多いところですよ。区民会議にも外国人の1人として意見をいうつもりで参加しました。このグループの半分以上は、外国人の内容ですごく盛り上がりました。他の班よりも外国人の意見をどんどん出しやすかった。

外国人の問題で申し上げたいのは、5年くらい前に地域の商店街の方と話し合ったときは、地域の皆さまは、外国人は迷惑であり、日本人は商売が難しくなったなど「迷惑」ということを感じたのです。しかし、区民委員の方と一緒に話し合ったときには、少し意識が変わり大久保辺りの地域は外国人のおかげですごく活性化している、全国の中で大久保という珍しいまちを研究しにきたり、観光したりして、大久保の店に入り、混んでいるなど最近はずごく活性化し、いい街になっている。いい意味で、将来性のあるまちになっている。外国人のいい面を出して、10年後、20年後の新宿は、外国人と日本人と一緒に楽しめる、いい面でのまちをつくりたいなと思います。今からも皆さん宜しくお願いします。

【7班】

- : 7班です。宜しくお願いします。6班の方が言われたとおり、5つのテーマですが、相互に関連しているなかで、中心になるのは「コミュニティ」ではないかと考えております。相互に関係する問題ですが、あえて5つの項目に分けて、資料にありますように「現状」と「問題」から、必要施策を考えていきたいと思えます。

最初に「地域安全」ですが、特に問題は、新宿は住宅街が多くて、非常にいい環境ですが、道路が非常に狭い。植木鉢が道の真ん中まで並べられているとか、喫茶店の広告が出ている、電柱をどうにかしていかないといけない。具体的に問題はなんだろうと考えますと、コミュニティの問題と関わるのですが、24時間住んでいる人とコミュニケーションがとれなくなってきていると思えます。特に地域で働いてきた人と地域住民が全くコミュニケーションをとれなくなってきている、これが問題ではないか。まだまだ社会資本がなくなって、またバリアフリーもまだまだ解決できていない。神楽坂では相当数の階段を上らなければならないし、歩道と車道の段差がまだあるなどです。

では、それに対して、どのように解決するか。1つはやはり、目に見える目標を達成する。目標の期限を決めて「電柱を地下化する」とか決めて、そして実行したりすればできる問題ですので、具体的に取り組んでいけると思えます。

もう1つは道路が非常に狭いので、植木鉢が出ているとか広告とか、どんな所も100年も経てば、建て替えになるのだから、せめて5メートルセットバックを決めて、その代わりに容積率をアップするなどして、道路を拡大していくべきではないか。現在は自由社会になっているが、地縁社会、血縁社会へと回帰することができるのか、学識委員の先生に理論的にお話を聞きたい。

「多文化共生」につきましても、同じような問題があり、新宿区の一割が外国人であり、知らないと言っている場合ではない。入国にあたって日本の風俗を教えているかなど、外国人にも理解してもらうことが大事ではないか。いずれにしても、国際化は止めることができない話です。

「コミュニティ」については、今は本当に年寄りと専業主婦と商店主だけになっている。サラリーマンは朝早くに出て、夜は帰って寝るだけである。そこで、若い人が取り組んでいけるように、大学や高等学校で、学生のボランティア活動を増やすなどできないだろうか。是非取り組んでいきたい。それから、地域の行政サービスを区に変わって対処する。

これに関連して「自治制度」ですが、町会を見ても、こんなでたらめな組織はないんじゃないかと。例えば、町会の規約を見ても、これが町会の規約と言えるのか。行政で指導をし、標準化して、そして地域の問題を任せてもらう。地域にできることは地域に任せてもらう。地域に予算を落としてもらうべきじゃないか。町会、町会言うけれど、こんなでたらめな規約で、殆どの町会では、良くやっているとは言えない。次回はコミュニティと自治制度の問題を中心にやっていきたいと思えます。

【8班】

- : 8班です。発表の形式は全体のテーマについての大まかなまとめを発表し、そのあと各委員のメッセージを皆さんに聞いて頂く形で発表させていただきます。

8班のコミュニティを除いた4つのテーマの関連性ということで、協働・参画を議論のスタートとしました。これは区民会議に参加の皆さんが協働・参画の姿勢でいろんなテーマに望んでいると思えます。このような姿勢を区民が持つことが問題解決につながるのではないかと。各テーマについてキーワードの言葉を考えた。

「協働・参画」は、一緒に考えて行動する。メッセージの発信の場である。行政からの住民への協働・参画の働きかけの軸と民間からの様々なネットワークの軸が大事ではないかと。共有できるように、住民に分かりやすいメッセージを発信することが、協働・参画が住民に身近なものとなる。

「自治制度」は、既存の町内会・自治体の活性化、新しい世代が参加できる仕組みづくり、一人一人の交流の促進が大事ではないか。既存の組織のいろいろな問題点を整理していく。無くすのではなく、既存のものは既存のものとして活性化させていく。それとは別に新たな組織、マンションに入っている人や、若い人が参加できるようなものが絡み合うような仕組みを考えていく。そうしないと自治制度がうまく機能しないのではないか。

「地域安全」について、新宿の場合は「都市型の」を付けた方が、より実態をつかみやすい。今後も「都市型の」を意識したほうが考えていける。都市型の自然災害の対策と地域での防犯対策をキーワードとして考えている。

「多文化共生」の問題、キーワードは異文化を知り、認め合い、理解し合うということ。新宿は地域の差はあるが、新宿の特性として、このテーマは欠かすことができない。排除するのではなく、違いを認め合うことで、共につくっていく関係をつくる。そのためには生活の中で、それぞれが実感するような場を、それは文化であったり、スポーツであったり、具体的な交流をすることによって、認め合い、理解することができるのではないか。

「コミュニティ」は、A、B、C、Dの相乗効果によって、コミュニティがより良く作用して形成されるのではないか。安心して暮らして住み続けていけるために、いろんな諸先輩の知恵や若い人のアイデアを出せる仕組みを考えていく。学校などもそれらの核としながら、それに変わるものも考えていけるように、考えていきました。それでは自治制度、地域安全、多文化共生について各委員から発表します。

- : コミュニティづくりは最終的な結論であって、積み重ねていって、参加し意識していくことで、自分たちが動いていくことで、地域安全や多文化共生に考えていく基礎になる。自治会について調べたのですが、私も自治体には入っていません。会費は払っているようですが、決算書が来ても飲食費などに文句を言う人が多く、形骸化しているのではないか。うまくいっている町会は珍しいのではないか。町会ってあるの、会費は取りにきているが、自分も友人に参加しないかといわれたが、会長さんがうるさくてワンマンで、行く気もしなくなる。

現在、ボランティア活動として、若い人を含めてのボランティア・グループができて、祭りなどをしている。路地の文化を残していく、建物の保存など最終的にはコミュニティづくりを考えることから始まった。東京シティガイドとか吉祥寺等のように「町案内」と、検定制度みたいなものをつくって、これから増える団塊の世代の方にやってもらう。検定制度を受けてもらって、町の活動に参加する面白さを知ってもらおうかと、商工会議所などの協力を得て始めようとしている。面白さ、自分が動くこと、知る行動をすることが大事だと思います。そういうことを大事にしていこうと思います。

- : 地域安全、これは犯罪と災害と括りまして、いかに防いでいくかが地域安全の問題です。地域の特性によって起きる災害は違うけれど、まず身の安全が一番である。監視の目を厳しくして、監視の目が厳しいことを周りに伝えていく。自分たちでやる場合には、安全に避難するなど、こういうことを中心にして、やっていけたらと思います。次回は多文化共生について、テーマにしていきたい。

【9班】

- : 9班の発表をします。よろしくお願ひします。「コミュニティ」について、まず考えました。社会における連帯感の薄れを、話し合いをしました。まず人が大事なのではないか。人と人とのふれあい、助け合う関係づくりが大事だと思います。その次に情報です。人と人との出会い、集いあえる場所づくり。情報が交錯したコミュニティが重要ではないかと思いました。次に場所ですが、都庁もある新宿区なので、10年後を考え、新宿駅に劇場やホテルなど入った新しい駅ビルを建てて、東京駅に見劣りしない、大企業を巻き込んで、10年後に住んでいて楽しい新宿のまちをつく

ればいいのではないか。

次に「多文化共生」ですが、非常に難しい問題でした。私たちの班では、今回のテーマから多文化共生を外してもらえないか、また文化や生活様式の違いを各国の人と交流を深めることにより、認識の違いを深めていく。お互いの文化を知り、新宿区の文化の発信地となるように将来していきたいという意見がありました。

「地域安全」についてです。区民の生命と安全を守る地域安全について考えましたことは、安全と安心な暮らしは、コミュニティがしっかりと足についた活動をして、社会の構築をしなければいけないということです。

防災についてですが、地震にしても、安全の備えがあつてよかったという班があつたが、地震対策を一人暮らしの高齢者、障害者、赤ちゃんのいる家庭に対して、救助・救援について具体的行動計画を作成することが必要です。

防犯についてですが、防犯パトロールや薬物乱用防止など、若者の健全育成に、より協力していかなければいけない。助け合いは、みんな知らない顔をしなくて、お互いに声をかけあつていくことが大事。平和で安全な新宿区を将来ともに保つためには、地域住民の協力、官民の協働が大事だ。

「協働・参画」は、官の主導から民の主導への移行。市民団体・NPOは区の事業と協働したいという要望、区職員は中心になって対応してほしい、区民会議のように区役所の一方的なものではなく、協働をお願いしたいという意見がありました。官民の協働・参画がスムーズに進めばいいなと話し合いました。

「自治制度」ですが、民間のオブザーバーを含めた自治制度の改正、少子高齢化していくので、小さな区政にしていかなければならないのではないかと。最後に関係関係としまして、新たな公共・自治のあり方として、すべてはリンクしている。しかし、まずはコミュニティを軸に考えることが大事である。これが総括です。

- : (多文化共生の) 1の文言は私が提案したが、第一回会議からこのような問題をぶつけようとしてきた。どうも綺麗な言葉で、みんなで一緒に議論しようと、区は外国人とあまりめごとを起こしてくれるなど、教育勅語のようになっている。水戸黄門の印籠が出てくるようでは、実状認識や良い将来展望にはならない。9月から多文化共生プラザができるということで、たまたま説明会があつたが、何やるつもりかのプラザなのかさっぱり分からない。外国人という問題で区役所は、防災訓練に外国人を参加させようとしたが失敗し、それで町内会とあるグループの対立も起こった。外国人の取り扱いは、そんなに簡単なものではない。実状といいながら、本当の実状を把握していない。研究においても、学者的な論では物事は改善できない。だから表題から外して頂きたいと思っています。プランはもっている。

【10班】

- : 10班です。まずKJ法で意見を各自に発表してもらったのですが、まとめる前に、まずは最終的な新宿区のイメージをつくって、どのように考えるかをまとめました。新宿区に通う人、区内に住む全ての人にとって「暮らしたいまち新宿」となりました。暮らしたいというのがミソであり、「住みたい」ではない。区の特徴は、新宿は素晴らしい住宅街もありますが、西新宿のような商業地域、歌舞伎町のような歓楽街、大久保のような外国人の方が多く住むまち、いろんな町の方がいる。全ての方がそこに暮らしたいということが大事なのではないかと思い、このようなテーマにした。それぞれの相手の立場を思いやりして、素晴らしい町にしたいと思う。先ほど、フィッシュ・ボーンを例にした方がいるのですが、私たちは骨になる部分に「地域安全」をテーマに取り上げました。それから、新宿区は「多文化共生」が重要なテーマとしてあるので、「地域安全」を軸にその中で「多文化共生」をテーマに盛り込んであります。次の改善ポイントとして、ソフトの部分、既存の組織ではうまくいかない。例えば町会がうまく機能しているとは言えない。新しいマンションの住民や外国人の

方々など、情報伝達が既存の組織だけでは難しく、商店街でも同じようなことが起こっている。ルールづくりということで、そういう話も大事かと、公共空間などについても意識改革をしていこうと考えています。

そして、現状確認から問題解決ということで、キーワードとして、「コミュニティ」、「コミュニケーション」が大事なのではないかと。その中で、情報伝達と共有。情報伝達をどのように行っていくのかと、環境整備。道路などをどうやって整備していくか、多文化共生、この3つのテーマを考えていこうと思っています。目標を、並列したものではないのですが、いろいろ世代間を超えたり、昼間そこで働いている人と人をつないだり、外国人との何らかのつながりをつくったり、お互いの立場を思いやり、新しいネットワークづくりができればと思い、書かせてもらいました。

具体案の1として、ソフトの部分ですね、まずは情報伝達の方法は、町会など今は商店街などを經由して情報伝達をしているのですが、それが悪いのではなくて、それに加えて、さらに網のような仕組みがあればいいのではないかと。それから、元気な高齢者や団塊の世代の方が実際に地域に戻ってこられることが考えられるので、こういった地域のキーパーソンを掘り起こしが必要なのではないでしょうか。

ホームレスの方々への情報伝達も、中に入れてもいいテーマですが、公園で住んでいる方なども居て、解決しなければならぬ重要な問題です。外に出しました。次に環境整備ということで、商店街の道路などを話させて頂きたいと思いました。バリアフリー、放置自転車の規制、路上看板の撤去、防犯カメラの設置、監視カメラの設置、防災対策の強化。道路の使用、これは製本会社の方が駐車することもあるのですが、そういったものを話し合った上で、コミュニケーションなど、解決していくことを含みます。

「多文化共生」ということで、30万人のなかに3万人が入ってきているということで、地域がどう前向きに受け入れていくのか。商店街の場合、電気代の負担というものは、日本の店主だけでは支えられなくなってきているほどで、大久保小学校は1年生がすべて外国人だったりするわけです。そのような税金が使われていることと受け入れとの議論をしていければいいと思っています。治安も良くなったし、若いカップルが六本木でご飯を食べる代わりに大久保で韓国料理を食べるようになった。こういうことをプラスのイメージで、新宿区の長所として考えていければいいのではないかと考えています。

【11班】

- : 11班です。私たちはディスカッション形式でやらせて頂きました。

コミュニティの角度からですが、問題点として女性とか子どもが気楽に集まれる場所がないということが、改善の土壌となるキーワードではないかと。それから世代間の情報不足などが問題ではないかと。

解決方法として、ハード的には情報交換の場を設けていきたい。まずは地域によって。これは私の所属する地域で実際にやっているものですが、回覧板を町会にはあるものだと思っていたのですが、私は引っ越ししてきて回覧板がないというのにびっくりして、あえて手渡ししてくださいと回覧板をまわすことにしました。まわりとつながりを持てるようになりましたとか、嬉しい報告があったりして、コミュニティが復活してきたんじゃないかなと思います。

「多文化共生」ですが、外国の方というよりは1つの文化圏を構成しているということで、日本の若者も挨拶しない、コミュニティに参加しないとか、大久保地域の方の話なんですけど、交流の機会すらない、現実が伴わないなどの課題があります。

解決策として、ハード的な施設を利用するべきで、地域センターもあるのですが、さらにハード的な学校施設を利用したい。また挨拶などをすることを、地域に展開できないかと。

次に「地域安全」として、問題点として外国人全体が犯罪者ではないけれど、象

徹的な記事が出てしまうと意識してしまう。それから安全パトロールの仕組みですが、しっかりと話し合いがないとうまく機能しない。また協調性もない。したがって具体的な方策がない。

解決策として、地域安全は皆さん懸念として持っているので、まずは横の連携、つながりをつくっていく。

「自治制度」ですが、問題点として、やはりあの地域の自治ということでは、町会などがありますが、最近80歳の町会長から50歳の町会長に変わって、それでも若くなった。その他に、異文化などの把握などができているか、把握した先にもどのように情報を共有するか。

この解決の方法として、きめ細かに対応できる組織を考えると、既存の組織だけでは厳しいので、受け皿として、行政、それからNPOが期待できる。

「協働・参画」に関して、これはまだ議論が足りていないのですが、どこからスタートするか。方向性としては、NPOか。行政といったときには、職場で何かを一緒にやり遂げる、場としての職場を真剣に考える必要がある。

まとめですが、全テーマを議論した上で、改めて行政と協力しながらコミュニティをつくり、世代間や国籍を問わず、つながりをもっていく。分かりやすく総括してみたのですが、現在、町会という横のネットワークが制度疲労を起こしており、職場や家庭と言ったタテ社会中心に偏っているなと思います。今後は、まさに区民会議の位置づけを注目しておりまして、委員は個人で参加しており、それは核家族でもなく、地域でもないの、ナナメのネットワークをあたため、つくっていくことが肝要ではないかと思いました。言ってみれば、意識で結びつくネットワークの必要性を感じた議論ができました。

3 その他

○ : ありがとうございます。これで11班の発表が終わったわけですが、次回以降について、学識の土屋委員からお願いします。

◎ : (土屋) 今回の発表にあたっては、事前に本庁舎の「交流の場」を利用して数時間にわたって準備をした班が多数あったと聞いております。まさに区民委員の手作りの発表をしていただいたわけですが、新宿区民会議が区民主導ということを目的として立ち上げたことを考えますと、本当の意味で今日がスタートになったのかなと思います。

次回以降のテーマをどうするかを提案したいのですが、提案の一つの着眼点として、まずは新宿区の固有の課題、特性のあるテーマを議論していったらどうかと思います。具多的には「地域安全」と「多文化共生」です。

「地域安全」では、新宿区は日本一の歓楽街である新宿駅と歌舞伎町を抱えている。「多文化共生」では約1割の方が外国籍の住民です。これら二つを先に議論して区の特徴ある課題を前提とすることで、新宿のコミュニティはこうあるべきだとか、協働参画はこうするべきだとかいう議論が出てくるのではないかと。また、各班の発表でも、いくつかの班で地域安全と多文化共生を先に議論すべきとの意見も出されています。

そこで、「地域安全」と「多文化共生」のどちらを先にやるのかということですが、発表を聞いていますと、「多文化共生」に関してはその概念の理解の仕方を含めて意見の違いがかなりある。もう少し時間を使ってお互いのバックグラウンドとか皆さん同士の顔が分かっている方が、意見の違う「多文化共生」は議論しやすいのではないかと。「地域安全」を議論してから「多文化共生」をやるということにしてはどうか。

もう一つ提案ですが、今後KJ法なども使ってさらに議論を深めていただくとと思うのですが、議論の前に区民委員の報告の機会をつくってはどうかと思います。

今までの班ごとの議論でも、地域で活動している区民委員の方の実際の活動を伺いたいという声が出ていましたので、現在の地域の現状であるとか課題であるとかを報告してもらおう。同時に新宿区の職員にも、皆さんの発表を受けた形で、区政の現状、関連する都政・国政の動向、他の自治体の先進的取り組みなどを報告してもらってはどうか。

それで、報告してもらおう区民の方をどう選ぶのかということですが、本来ならば自薦・他薦がいいのですが、準備期間が足りない、時間がないので、次回の9月に関しては、事務局が学識委員と相談して区民委員に依頼する。それ以降は、皆さんが相談して決めていく。そういう形をとってはどうかと思うのですが、どうでしょうか。（拍手）

4 都市計画部からの説明

○：「歩きたくなるまち新宿」について、簡単に報告させて頂きたいと思います。

地域の人たちと一緒に、神楽坂楽々散歩という地図を以前つくり、歩くということが昔から大事なのではないかと考えていたのですが、ランドデザインも歩くことを基本に考えたものです。また、道路や都市計画だけでなく、ソフトとハードのまちづくりを融合させようと、提案するものです。基本構想、基本計画、都市マスタープラン改定の素材として活用していただきたいと考えています。

ランドデザインの基本の考え方は、これからのまちづくりは、持続可能なまちづくり、21世紀型のまちづくり、今までのまちづくりとは変わっていかねばならないということです。

新宿区は、いろいろな人が住んでいて多様さが特徴です。自然の面では神楽坂のあたりは都内で一番低いような所なのですが、戸山公園には箱根山と言う23区内で一番高い所がある。新宿という名前は、内藤さんの土地にできた新しい宿場、内藤新宿に由来しています。江戸時代のまちづくりとしては、玉川上水が新宿区の町に、非常に大きな影響を与えています。

文化の面では、新宿区は文化的にも近代文学発祥の地、夏目漱石が亡くなった場所です。また、早稲田大学がある。早稲田大学は外国人を受け入れると言う先駆的な大学であったわけです。

賑わいの面では、いろいろなものがあって、新宿区は最先端であり、1兆3千億円を超える売り上げを誇る商業集積がある。また、歌舞伎町は1日30万の来街者がいるとも言われている。歌舞伎町は世界的に見ても有数のアミューズメントパークかもしれない。さらにアップルコンピュータの本社があつたりもする。その一方で京都や金沢と同じような、染色などの伝統産業もある。

そういったものを基礎に、新宿としてどういった将来像があるのかを考えた。

3つの将来像を考えたが、その1つに、芸術文化創造のまちにできないかということ新たに位置づけています。

次に4つの仕組みで、将来像を実現していきたいと考えている。一人一人が公共サービスを担ってやっていく。協働参画というのが基盤です。区役所はいろいろな人が取り組むまちづくりの結集点となればいいのかと思います。

区の固定資産税は新宿区に入ってきていない。法人税も。それらは東京都がとって分配している。ですから、区の税金が新宿区に帰ってくるようなものを考えないといけない。

具体的なまちづくりとしては先導的なものを5つ掲げている。まず、歌舞伎町から再生していかないとはいけないうこと。それから防災の問題などを解決していこうと思います。20世紀型のまちづくりから21世紀型のまちづくりに変えていこうと考えています。コンテンツ産業を含めて新しい産業を取り組んでいこうと思っています。

これらを皆様と考えていただくためにまとめたのがランドデザインということ

になります。

次に、新宿区マスタープランを配りましたが、位置づけを説明しますと、平成4年に都市計画法が改正されて、できたのが都市マスタープランであり、基本構想、基本計画とともにハード面の基本的な方針となっています。

今まで大体都市計画、まちづくりはうまくいっていなかったというのが現実です。その反省の上で地域の将来像を共有することが大事だということで、つくられたものであり、まちづくりが住民本位に少しずつ変わってきているというのが現状かなと考えています。

都市マスタープランは基本構想、基本計画とは別の体系となっており、東京都の整備・開発・保全の方針に基づくことになっている。また、財政措置が伴っていない計画で、基本計画や実施計画に反映されて事業化されるものです。基本構想、基本計画が言葉の計画であるのに対して、都市マスタープランは根本的には地図の計画であり、即地的なものが都市マスタープランです。

都市マスタープランは部門別の方針と地域別の方針で構成されています。区民会議では部門別の方針を検討いただき、地域別方針については、自分たちの身近なところで何がおこっていくのかということ、各出張所単位でつくられる地区協議会で検討いただこうと思っています。以上です。

- : 予定時間を遥かに超えてしまいました。すいません。また次回につきましては、データやパワーポイント、ワードなどが使えるかどうかを、班の構成のときに考えさせてもらうかもしれませんが、宜しくお願いします。

5 閉会

<決定事項>

・ 次回は、「地域安全」をテーマに、第6回会議（発表会）に向けて新しい班で検討を行います。また、検討に先立ち、区からの現状説明及び実際に地域安全の活動をしている区民委員から報告をいただきます。

<次回日程>

- ・ 9月3日（土）13時～15時 新宿清掃事務所 会議室
- ・ 9月7日（水）フォロー会議：19時～21時 新宿区役所第2分庁舎1-③会議室